

GOLD
BLEND.
Concert
SPECIAL



おかげさまで20周年

ごあいさつ

このたび、ネスカフェ・ゴールドブレンド発売20周年を記念し
ここ東京のサントリーホールにおきまして、
ゴールドブレンドコンサートスペシャルを開催する運びとなりました。
みなさまの暖かいご声援に支えられながら、
今年で15年目を迎えたゴールドブレンドコンサート。
弾く楽しさと、聴く喜びを大勢の方々にお届けしてきた
その歴史の集大成が、今日のコンサートです。
今後も、これまでの経験と実績を継承しながら、
日本中の音楽文化の向上と発展をめざして、努力してまいります。
何卒、より一層のご声援、ご協力のほど、
よろしくお願い申し上げます。

ネスル株式会社

あなたも出演者です。
あなたの街の音楽会です。

テレビラジオでおなじみの石丸寛とあなたの街の演奏家たちの
ゴールドブレンドコンサート

Gold Blend
Concert
SPECIAL

4,000名さま
ご招待!!

とき/9月22日土曜日 2時~2時30分開演
ところ/新潟県民会館大ホール

出演
母なる信濃川
組曲「水上の音楽」

（これは、お近くのスーパーのNESCAFÉゴールドブレンド売り場にある
申し込み用紙をご用意ください。新潟放送の事業部へお問い合わせください。）

●主催 新潟放送 ●協賛 NESCAFÉ株式会社 ●会場 新潟県民会館大ホール
●後援 新潟県教育委員会・新潟県音楽協会

感謝の心をこめて

僅か15人のオーケストラというものが存在するだろうか。ゴールドブレンドコンサートは、しかし、このような状態で、絶望と背中合わせて1973年にスタートした。オーケストラを愛する彼等と共に笑い、哭き、時には烈しく叱り、励まし合いながら、オーケストラという怪物のせめて尻尾をつかまないと、深い山の中を彷徨してきた。江藤俊哉さんや徳永二男さんを始め、私の敬愛してやまない数多くの偉大な音楽家たちが彼等に勇気と歓びとを与えてくださった。そして、ともすれば自らの力不足に絶望しがちな私を無言で支えてくれたのがネススル社であった。コトバではない、この静かなメッセージのなかに私は音楽への愛を感じ、それが今日まで私をオーケストラづくりに駆りたてたのだと思っている。4000人を超える全国のゴールドブレンドオーケストラの中から選ばれて今宵サントリーホールに集うこれらの音楽家たちよ！心をこめて歓びの調べを奏てようではないか。

石丸 寛
ゴールドブレンドコンサート 音楽監督

GOLD BLEND Concert SPECIAL

日時

1987年8月2日(日)

Aプログラム 13:30~16:00 Bプログラム 17:00~19:30

会場

サントリーホール(大ホール)

音楽監督

石丸 寛

企画構成

森 千二

制作

株式会社1002

主催

ネススル株式会社

後援

北海道放送 青森放送 岩手放送 山形放送 東北放送 福島テレビ 新潟放送 信越放送
山梨放送 テレビ静岡 北日本放送 北陸放送 福井放送 山陰放送 中国放送 山口放送
山陽放送 西日本放送 四国放送 南海放送 高知放送 RKB毎日放送 長崎放送
熊本放送 大分放送 宮崎放送 南日本放送 琉球放送 千葉テレビ テレビ神奈川 サンテレビ

東奥日報 陸奥新報 山形新聞 岩手日報 福島民報 新潟日報 北日本新聞 福井新聞
山梨日日新聞 神戸新聞 信濃毎日新聞 山陰中央新報 山陽新聞 中国新聞 徳島新聞
四国新聞 長崎新聞 熊本日日新聞 大分合同新聞 宮崎日日新聞 南日本新聞 沖縄タイムス

音楽之友社

PROGRAM A

オーケストラ: 西日本ゴールドブレンド・オーケストラ
Orchestra: WEST-JAPAN GOLDBLEND ORCHESTRA

〔I〕

デーリアス
DELIUS

小管弦楽のための二つの小品
2 Pieces for Small Orchestra

I: 春はじめてのカッコウを聞いて II: 河の上の夏の夜
I On Hearing the First Cuckoo in Spring II Summer Night on the River

ラフマニノフ
RACHMANINOFF

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
Piano Concerto No.2 in C-minor op.18

I: モデラート II: アダージョ・ソステヌート III: アレグロ・スケルツァンド
I Moderato II Adagio sostenuto III Allegro scherzando

ピアノ 寺田悦子 弘中 孝 花房晴美
Piano: Etsuko Terada Takashi Hironaka Harumi Hanafusa
指揮 今村 能
Conductor: Chikura Imamura

〔II〕

ヴィヴァルディ
VIVALDI

二つのヴァイオリンのための協奏曲 イ短調 作品3-8
Concerto in A-minor for 2 Violins, Strings and Continuo op. 3-8

I: アレグロ II: ラルゲット・エスピリトソ III: アレグロ
I Allegro II Larghetto e spiritoso III Allegro

ヴァイオリン 徳永二男 数住岸子
Violin: Tsugio Tokunaga Kisiko Suzumi

ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品3-6
Concerto in A-minor for Violin, Strings and Continuo op.3-6

I: アレグロ II: ラールゴ III: プレスト
I Allegro II Largo III Presto

ヴァイオリン 徳永二男
Violin: Tsugio Tokunaga

二つのトランペットのための協奏曲 ハ長調 作品46-1
Concerto in C-major for 2 Trumpets, Strings and Continuo op. 46-1

I: アレグロ II: ラールゴ III: アレグロ
I Allegro II Largo III Allegro

トランペット 津堅直弘 栃本浩規
Trumpet: Naohiro Tsuken Hiroki Tochimoto
合奏 N響トップメンバーによるアンサンブル
Ensemble: Members of The NHK Symphony Orchestra

〔III〕

チャイコフスキー
TCHAIKOVSKY

弦楽合奏のためのセレナーデ ハ長調 作品48より“ワルツ”
"Waltz" from Serenade in C-major op. 48

序曲「1812年」作品49
Overture "1812" op. 49

指揮 石丸 寛
Conductor: Hiroshi Ishimaru

賛助出演: 駒沢大学吹奏学部
Komazawa Univ. Brass Ensemble

PROGRAM A EXPLANATION

曲目解説: 横溝 亮一

デーリアス 小管弦楽のための二つの小品
DELIUS 2 Pieces for Small Orchestra

「春はじめてのカッコウを聞いて」「河の上の夏の夜」
On Hearing the First Cuckoo in Spring Summer Night on the River

フレデリック・デーリアス(1862-1934)は、イギリスに帰化したドイツ系の作曲家で、グリーグやフランス印象派の影響を受けながら特異な作風を示した人です。若い頃、アメリカで農園を経営したり、晩年はパリ郊外の田園地帯で暮らしたりしたことから、自然を題材にした作品を多く書いています。この2曲は、1912年に作曲され、ともに爽やかな風物詩的な音楽となっています。

ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
RACHMANINOFF Piano Concerto No.2 in C-minor op. 18

ショパン、チャイコフスキーの協奏曲などと共に、甘美なメロディーで愛好されている曲です。モスクワ音楽院を卒業して間もなく、彼は交響曲を発表しましたが、これが不評でノイローゼになりました。しかし、精神科医のニコライ・ダールという人のおかげで回復し、この曲を作曲、世話になったダール博士に献呈しました。全体に甘い旋律と華麗な技巧で広く知られています。全曲は3つの楽章で構成されています。

ヴィヴァルディ 二つのヴァイオリンのための協奏曲 イ短調 作品3-8
VIVALDI Concerto in A-minor for 2 Violins, Strings and Continuo op. 3-8

アントニオ・ヴィヴァルディ(1678-1741)は、ヴェニスに生まれた人で、カトリックの神父でもありました。彼はヴァイオリンの演奏が巧みで、非常に多くのヴァイオリン曲を作曲しています。特に急・緩・急の3楽章から成る協奏曲の形を確立した点でも評価されています。作品3は全部で12曲を含んでおり「和声への靈感」と題されています。第8番は二つのヴァイオリンがからみあいながら進む曲で、今日でもよく演奏される曲になっています。この曲はヴィヴァルディの優れた作品であるばかりでなく、ドイツの大作作曲家バッハがこの種の協奏曲のよきモデルになっているという点においても評価されています。

ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品3-6
VIVALDI Concerto in A-minor for Violin, Strings and Continuo op. 3-6

これも1712年に出版された12曲のシリーズの中の1曲です。聞けばすぐわかるように、この曲はヴァイオリンを習う子供たちがよく弾くもので、演奏技巧がやさしく、しかも華やかな印象を与えるので愛好されています。本格的に演奏されると、意外に立派な曲だとの印象を持たれる方も多いことでしょう。

ヴィヴァルディ 2つのトランペットのための協奏曲 ハ長調 作品46-1
VIVALDI Concerto in C-major for 2 Trumpets, Strings and Continuo op. 46-1

これは独奏楽器を2つのトランペットにしたもので、たいへん輝かしい音が楽しめる曲になっています。前の2曲同様、急・緩・急の3楽章で構成されていますが、第2楽章はほかの弦楽用協奏曲にも使われています。

チャイコフスキー 弦楽のためのセレナーデ ハ長調 作品48より「ワルツ」
TCHAIKOVSKY "Waltz" from Serenade in C-major op. 48

交響曲やバレエ音楽で華麗な管弦楽を創ったチャイコフスキーが、弦楽合奏用に書いた曲です。全曲は5楽章あり、今日演奏される「ワルツ」は第2楽章です。しなやかに優美な雰囲気の魅力があります。

チャイコフスキー 序曲「1812年」 作品49
TCHAIKOVSKY Overture "1812" op. 49

これはオーケストラで演奏される音楽としては、もっとも大きな音のする曲といえるでしょう。1812年、ロシアに侵攻したナポレオン軍との戦いが勇壮に描かれ、大砲まで打ち鳴らされます。進軍するナポレオン軍を示すフランス国歌「ラ・マルセイエーズ」……。それが次第に途切れがちとなり、遂にロシア軍の大勝利となって曲は終わりとなります。

この曲では普通のオーケストラのほかに鐘や大砲までステージに持ち出されることがあります。また大砲が用意出来ない時は、あらかじめ録音しておいた大砲の音をスピーカーを通して、ホール一杯に鳴り響かせるやり方をすることもあります。いずれにしても、迫力満点で聴く人の手に汗握る音楽となっています。

PROGRAM B

オーケストラ：東日本ゴールドブレンド・オーケストラ
Orchestra: EAST JAPAN GOLDBLEND ORCHESTRA

〔I〕

モーツァルト
MOZART

歌劇「魔笛」序曲

Overture from "The Magic Flute"

歌劇「フィガロの結婚」より「もう飛ぶまいぞこの蝶々」
"Non piu andrai" from "The Marriage of Figaro"

バリトン 栗林義信

Baritone: Yoshinobu Kuribayashi

歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より「お手をどうぞ」
"Là ci darem la mano" from "Don Giovanni"

ソプラノ 秋山恵美子 バリトン 田島好一
Soprano: Emiko Akiyama Baritone: Koichi Tajima

歌劇「後宮よりの逃走」より「バッカスばんざい」
"Vivat Bacchus" from "The Abduction from the Seraglio"

テノール 小林一男 バリトン 平野忠彦
Tenor: Kazuo Kobayashi Baritone: Tadahiko Hirano

レクイエム ニ短調 K. 626より「レコルダール」(思い出させ給え)
"Recordare" from Requiem in D-minor K. 626

ソプラノ 常森寿子 アルト 春日成子 テノール 鈴木寛一 バリトン 芳野靖夫
Soprano: Toshiko Tsunemori Alto: Shigeko Kasuga Tenor: Kanichi Suzuki Baritone: Yasuo Yoshino

指揮 田中一嘉

Conductor: Kazuyoshi Tanaka

〔II〕

メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20より
MENDELSSOHN String Octet in E flat-major op. 20

III: アレグロ・レグジェーリッシモ IV: プレスト

III Allegro leggerissimo IV Presto

ヴァイオリン 江藤俊哉 江藤アンジェラ 戸田弥生 瀬川祥子
Violin: Toshiya Eto Angela Eto Yayoi Toda Sachiko Segawa

ヴィオラ 豊嶋泰嗣 渡部基一 チェロ 安田謙一郎 渡部玄一
Viola: Yasushi Toyoshima Kūchi Watanabe Violoncello: Kenichiro Yasuda Genichi Watanabe

シューベルト ピアノ五重奏曲 イ長調 D. 667(作品114)「鱒」より第4楽章
SCHUBERT Piano Quintet in A-major "Die Forelle" D. 667 op. 114

IV: 主題と変奏・アンダンティーノ
IV Theme and Variation: Andantino

ピアノ 渡辺康雄 ヴァイオリン 江藤俊哉 ヴィオラ 豊嶋泰嗣 チェロ 安田謙一郎 コントラバス 窪田 基
Piano: Yasuo Watanabe Violin: Toshiya Eto Viola: Yasushi Toyoshima Violoncello: Kenichiro Yasuda Contrabass: Motoi Kubota

ブラームス ピアノ五重奏曲 ヘ短調 作品34より
BRAHMS Piano Quintet in F-minor op. 34

I: アレグロ・ノン・トロppo
I Allegro non troppo

ピアノ 渡辺康雄 ヴァイオリン 江藤俊哉 江藤アンジェラ ヴィオラ 豊嶋泰嗣 チェロ 安田謙一郎
Piano: Yasuo Watanabe Violin: Toshiya Eto Angela Eto Viola: Yasushi Toyoshima Violoncello: Kenichiro Yasuda

〔III〕

ベルリオーズ 幻想交響曲 作品14a
BERLIOZ Fantastic Symphony op. 14 a

I: 夢と情熱 II: 舞踏会 III: 野の風景 IV: 断頭台への行進
I Vision and Passions II A ball III Scenes in the Country IV The March to the Scaffold

V: ワルプルギスの夜の夢
V The Dream of the Withes' Sabbath

指揮 小林研一郎

Conductor: Kenichiro Kobayashi

モーツァルト 歌劇「魔笛」序曲

MOZART Overture from "The Magic Flute"

このオペラはドイツの伝統的な“歌芝居”の形をとり、楽しさが溢れる半面、フリーメイソンの3つの思想(自由、平等、博愛)を象徴化する二重性を持つ作品とされています。序曲も3つの和音でその思想を示し、以下、活発に進行します。

歌劇「フィガロの結婚」より「もう飛ぶまいぞこの蝶々」

"Non più andrai" from "The Marriage of Figaro"

第一幕の最後でフィガロが歌うバリトンのアリア。伯爵家のお小姓ケルビーノが軍隊に入ることになり、それを励まし、からかう行進曲調の曲です。

歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より「お手をどうぞ」

"Là ci darem la mano" from "Don Giovanni"

浮気男のドン・ジョヴァンニがいなか娘ツェルリーナを誘惑する場面の歌で、二人の重唱の形になっています。全曲の中でもとても有名な曲となっています。

歌劇「後宮よりの逃走」より「バッカスばんざい」

"Vivat Bacchus" from "The Abduction from the Seraglio"

トルコを舞台とした喜劇的なオペラで、ペドリロとオスミンという二人の男が眠り薬を入れた酒を知らずに飲み、ご機嫌で歌う二重唱です。

「レクイエム」ニ短調より「レコルダール」(思い出させ給え)

"Recordare" from Requiem in D-minor K.626

モーツァルトが死の床で書き、未完に終わった名作。他人に委嘱された音楽ですが、モーツァルトは自分の葬儀のためという意識で、涙を流しながら作曲したといわれます。これは「思い出させ給え、慈悲深きイエスよ…」と、深い感情をこめて歌われるソプラノ、アルト、テノール、バスの四重唱です。

メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20より第3、第4楽章

MENDELSSOHN String Octet in E-flat-major op.20 Allegro leggerissimo Presto

メンデルスゾーンがわずか16歳の時に作曲したもので、ロマン派時代の室内楽曲としては、傑作のひとつに数えられています。楽器はヴァイオリン=4、ヴィオラ=2、チェロ=2、という編成で、これは普通の弦楽四重奏を二つ併せた形となっています。16歳の少年の作とはいえ、非常に充実した内容の曲で、清新で、いきいきとした活気に溢れており、特にきょう演奏される第3、第4楽章は、はつらつとした音楽になっています。

シューベルト ピアノ五重奏曲 イ長調 D.667(作品114)「鱒」より第4楽章

SCHUBERT Piano Quintet in A-major "Die Forelle" D.667 op.114 Theme and Variation: Andantino

ピアノを伴った室内楽曲の中で、もっとも有名な曲です。シューベルトは22歳の時、年上の歌手フォーグルという人と旅行をしました。その時、シュタイルという町で知りあったパウムガルトナーという人から頼まれて作曲したのがこの曲です。全曲は5楽章ありますが、その第4楽章は2年前に作曲した歌曲「鱒」のメロディーが主題として使われています。のびのびとした歌のメロディーをもとにして、5つの変奏が続けられています。

ブラームス ピアノ五重奏曲 ヘ短調 作品34より第1楽章

BRAMMS Piano Quintet in F-minor op.34 Allegro non troppo

この曲が生まれるには幾つかの変遷がありました。ブラームスは1862年に弦楽五重奏曲を作曲しました。しかし、これに対して親しい友人の批判があったので、2台のピアノ用に書き直したのです。ところが、クララ・シューマンから「ピアノでは無理な内容の曲」といわれたので、さらに書き直し、ピアノ五重奏曲の形にしたのです。第1楽章は、重厚でブラームス特有の渋みのある音楽となっています。

ベルリオーズ 幻想交響曲 作品14a

BERLIOZ Fantastic Symphony op.14a

これは自分の失恋体験を音楽化するという特異な性格と内容を持った交響曲です。ベルリオーズがまだ無名で、パリで音楽の勉強に励んでいたころ、イギリスからシェークスピア劇団が来て「ハムレット」などを上演しました。その時、舞台に立ったハリエッタ・スミソンという女優に彼は心を奪われ、何度も通いつめたのですが、彼の存在を認めてもらえず、その悩みをこの交響曲にまとめたのです。曲は「ある芸術家の生涯の挿話」という副題がついており、さらに「失恋した芸術家がアヘンを飲んで自殺を計るが、死に切れずさまざまな幻覚を見る…」といった説明が添えられています。5つの楽章に恋人を意味する決まったメロディーが出てくるのも特色となっています。第1楽章「夢と情熱」、第2楽章「舞踏会」、第3楽章「野の風景」、第4楽章「断頭台への行進」、第5楽章「ワルプルギスの夜の夢」。

東日本ゴールドブレンド・オーケストラ

コンサートマスター	白柳 昇二 (東京)	神部 謙二 (盛岡)
重本 佳美 (山形)	益田 直美 (東京)	山崎 猛 (新潟)
第1ヴァイオリン	李 善銘 (東京)	菅原 斉 (千葉)
木村 ゆき子 (盛岡)	チェロ	青木 一由 (静岡)
松見 雅子 (盛岡)	西谷 英樹 (青森)	渥美 悦治 (浜松)
重本 佳美 (山形)	高橋 裕子 (山形)	井料 和彦 (東京)
松本 直人 (山形)	沼崎 義種 (福島)	ホルン
大塚 哲夫 (新潟)	伊村 術 (静岡)	中島 貴義 (千葉)
白井 元 (新潟)	植田 猪一郎 (静岡)	森田 宏明 (千葉)
須田 幸子 (新潟)	雲下 泰幸 (静岡)	大石 真弓 (静岡)
青山 ひさ子 (静岡)	津田 望 (静岡)	鈴木 英方 (静岡)
津久井 清美 (静岡)	熊谷 浩章 (浜松)	日野 幸子 (静岡)
望月 淳 (静岡)	小山 友康 (浜松)	小川 裕史 (浜松)
望月 隆弘 (静岡)	白柳 慶之 (浜松)	鳥谷部 啓二 (浜松)
大河内 淳子 (浜松)	美甘 和子 (浜松)	木村 淳 (東京)
木村 英道 (浜松)	常松 之俊 (東京)	松村 正春 (東京)
多田 洋子 (浜松)	コントラバス	トランペット
中川 順隆 (浜松)	笹川 康二 (盛岡)	佐野 勇 (静岡)
藤米田 健生 (東京)	成嶋 隆 (新潟)	高山 佳朗 (静岡)
長谷部 雅子 (東京)	河原田 潤 (福島)	深見 康英 (静岡)
第2ヴァイオリン	原 宏造 (福島)	庭田 俊一 (浜松)
野崎 明裕 (盛岡)	河内 恵二 (千葉)	山本 好孝 (浜松)
松見 和子 (盛岡)	中村 孝昭 (静岡)	トロンボーン
伊藤 浩史 (新潟)	田中 順一 (浜松)	緒形 次郎 (静岡)
朝倉 浩一 (千葉)	迎田 典子 (浜松)	沖山 一裕 (静岡)
石割 一彦 (静岡)	窪田 基 (東京)	神谷 潔 (静岡)
伊藤 智佳子 (静岡)	瀬戸川 道男 (東京)	近藤 智雅 (静岡)
大内 裕子 (静岡)	フルート	山田 昌義 (静岡)
河口 節子 (静岡)	五十嵐 孝信 (新潟)	村馬 隆 (浜松)
鈴木 聡 (静岡)	青木 衛市 (静岡)	チューバ
富田 昌樹 (静岡)	池谷 美和子 (浜松)	ウイリアム・ムーア (静岡)
重松 晃子 (浜松)	石垣 宏平 (静岡)	皆川 智子 (静岡)
白柳 咲子 (浜松)	小沢 節子 (静岡)	打楽器
野島 弘治 (浜松)	小出 温子 (静岡)	大村 俊範 (盛岡)
福元 宏江 (浜松)	木村 伊都子 (浜松)	大塚 富美子 (静岡)
増田 広子 (浜松)	オーボエ	小関 佳孝 (静岡)
長谷川 修 (東京)	正城 直己 (甲府)	坂田 博之 (静岡)
ヴァイオリン	松本 康子 (静岡)	鈴木 慎二 (静岡)
野里 和廣 (青森)	寺坂 至徳 (浜松)	松山 宏行 (静岡)
佐々木 佳子 (盛岡)	安原 理喜 (東京)	水崎 喜章 (静岡)
大森 克之 (福島)	クラリネット	ハーブ
石光 和雅 (静岡)	土田 政昭 (千葉)	柏原 靖子 (東京)
梶山 幹芳 (静岡)	伊藤 章 (静岡)	野畑 潤子 (東京)
神谷 知行 (静岡)	平井 芳章 (静岡)	
杉山 アキラ (静岡)	渡辺 祐志 (静岡)	
菅ヶ谷 純弘 (静岡)	鈴木 はる美 (浜松)	
高橋 朋子 (静岡)	美和 雅樹 (浜松)	
神代 幸子 (浜松)	ファゴット	

全国のゴールドブレンドオーケストラから選抜された精鋭アマチュア演奏家のみなさんです。

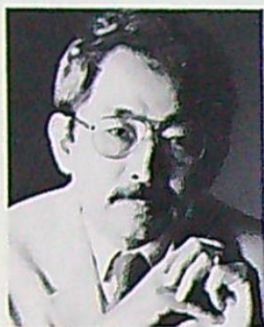
西日本ゴールドブレンド・オーケストラ

コンサートマスター	楨内 祥水 (徳島)	クラリネット
福崎 至佐子 (高松)	望月 明彦 (高松)	藤井 久雄 (徳島)
第1ヴァイオリン	米倉 由美 (徳島)	田中 久美子 (熊本)
広田 泉 (富山)	岡本 茂 (福岡)	阪本 滋 (大分)
井上 浩子 (倉敷)	津崎 雅久 (大分)	村井 祐児 (東京)
田辺 玲子 (倉敷)	山本 恭正 (大分)	ファゴット
中桐 佐智子 (倉敷)	滝沢 達也 (東京)	入野 俊浩 (高松)
福崎 至佐子 (高松)	中塚 良昭 (東京)	滝口 善之 (高松)
藤野 妙子 (高松)	チェロ	寺下 徹 (福岡)
水野 千賀子 (高松)	光延 勢吾 (倉敷)	菅原 晔 (東京)
勝山 尚子 (徳島)	岩瀬 理子 (高松)	ホルン
川上 三郎 (徳島)	花田 修次 (高松)	板谷 信昭 (倉敷)
木戸 洋子 (徳島)	藤井 美枝 (高松)	岡本 祝子 (倉敷)
三ツ井 政夫 (徳島)	米田 和代 (高松)	猪田 貴史 (高松)
百合 佐代子 (徳島)	生駒 元 (徳島)	岡田 信一 (徳島)
吉田 明雄 (米子)	小笠原 洋三 (徳島)	藤野 正敏 (徳島)
十川 真弓 (山口)	喜多 良一 (徳島)	藤原 哲也 (徳島)
岡本 正子 (福岡)	島村 美波 (徳島)	中野 行倫 (福岡)
南 淳一郎 (福岡)	平井 康文 (徳島)	長岡 慎 (東京)
山崎 崇伸 (熊本)	穴山 直子 (福岡)	トランペット
神田 千枝子 (大分)	白沢 史子 (大分)	岡山 茂幸 (徳島)
第2ヴァイオリン	佐々木 昭 (東京)	山田 幸宣 (徳島)
山本 薫 (富山)	松下 修也 (東京)	金沢 尚子 (松山)
赤澤 和美 (倉敷)	コントラバス	仲山 健 (福岡)
河村 真知子 (倉敷)	難波 由宏 (倉敷)	松井 利陽 (福岡)
木村 啓子 (倉敷)	吉田 弘一 (倉敷)	山口 潔 (福岡)
園田 哲郎 (倉敷)	藤原 丈司 (高松)	トロンボーン
守屋 美枝子 (倉敷)	斎 祐司 (徳島)	泉 信次 (徳島)
武村 寿子 (高松)	内藤 毅 (徳島)	高橋 政市 (徳島)
小林 絹代 (徳島)	穴山 健 (福岡)	中野 道夫 (徳島)
細川 和代 (徳島)	塔村 真一郎 (福岡)	森下 格 (福岡)
村松 賢治 (徳島)	西田 直文 (東京)	山下 薫 (宮崎)
山野井 貴子 (徳島)	松本 武全 (東京)	三輪 純生 (東京)
湖上 康一郎 (福岡)	大西 雄二 (東京)	チューバ
矢部 通隆 (福岡)	フルート	持田 亮 (徳島)
大宮 伸二 (熊本)	片山 知子 (倉敷)	山内 啓明 (松山)
松田 裕子 (大分)	菺淵 安美 (高松)	打楽器
吉岡 記史子 (宮崎)	武田 孝子 (高松)	浅野 恭司 (徳島)
田中 栄一 (東京)	香川 雅子 (徳島)	伊集院 豊 (徳島)
ヴァイオリン	武田 左知 (福岡)	中川 竜二 (徳島)
武本 克己 (倉敷)	オーボエ	丸谷 研二 (徳島)
坂 昭男 (高松)	赤松 由紀子 (倉敷)	家久 まり子 (松山)
坂 文雄 (高松)	佐竹 一郎 (高松)	永野 哲 (福岡)
佐々木 啓隆 (高松)	姜 在龍 (徳島)	
桂 修治 (徳島)	長谷川 保宏 (福岡)	
下山 貴司 (徳島)	虎谷 迦悦 (東京)	

(注)東日本・西日本とも各地区のプロ・プレイヤー協力出演を含む。

出演者紹介

指揮



石丸 寛 *Hiroshi Ishimaru*

1943年、文化学院大学部芸術科を卒業。管弦楽と指揮法を山田一雄氏に師事する。戦後、九州交響楽団を創立して初代常任指揮者となるが、その後全国のあらゆるオーケストラを指揮。特に地方の音楽文化育成に力を注ぎ、1976年以来、数回のヨーロッパ14都市にわたる演奏旅行や中国演奏旅行などでも絶賛を浴びた。



小林 研一郎 *Kenichiro Kobayashi*

東京芸術大学卒業。1974年、ブダペストの国際指揮者コンクールで第1位、特別賞を受賞して以来、ハンガリーを中心に活躍。現在、国立ハンガリー交響楽団常任指揮者のほか内外数多くのオーケストラの首席指揮者をつとめ、ヨーロッパを中心に旺盛な演奏活動をつづけている。レコーディングも数多い。



今村 能 *Chikara Imamura*

1976年、国立音楽大学卒業。1978年、桐朋学園大学指揮科研究生修了。カラヤン、小沢征爾、秋山和慶氏らに師事。1977年のカラヤン・コンクール・ジャパンで第3位入賞。その後ポーランド国際指揮者コンクールで優勝し、ポーランドを中心にヨーロッパやわが国で広く活躍、常に高い評価を得ている。



田中 一嘉 *Kazuyoshi Tanaka*

桐朋学園大学音楽部卒業。指揮を故斎藤秀雄、小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事する。1976年第4回民音指揮者コンクール入賞、奨励賞受賞。大阪フィル、群響の指揮をはじめ、最近では藤原歌劇団公演、盛岡県民オペラなど、歌劇の分野にも進出している。

司会



黛 敏郎 *Toshiro Mayuzumi* 作曲家

東京芸術大学卒業後、パリ国立音楽院に留学。オペラ「金閣寺」をはじめ、その作品は発表のたびにセンセーショナルな話題を集め、多くの賞を受賞したが、活動は作曲のみにとどまらず、20年以上もテレビの「題名のない音楽会」の企画・解説に従事するなど、広い視野をもって活躍している。昭和61年紫綬褒賞を受賞。



秋山 恵美子 ソプラノ
Emiko Akiyama

国立音楽大学卒業。同大学院修了。1970年、国立音楽大オペラ「魔笛」のパミーナでデビュー。1972年、第19回文化放送音楽賞受賞。1973年、第42回音楽コンクール第2位入賞。オペラはこれまでに「夕鶴」のつう、「蝶々夫人」の蝶々さん、「椿姫」のヴィオレッタ、「黒船」のお吉などを演じ、コンサート、テレビなどでの活躍も多い。



江藤 俊哉 ヴァイオリン
Toshiya Eto

東京芸術大学を経てカーチス音楽院に留学。1952年に卒業と同時に同校教授となる。在学中にカーネギーホールでデビューし、日本人ヴァイオリニストの国際的地位を確定した。現在に至るまでコンサートにレコーディングにと国際的な活動を続け、わが国最高の地位と実力を誇る演奏家として敬愛を集めている。



江藤 アンジェラ ヴァイオリン
Angela Eto

アメリカ、ニューヨーク州生まれ。カーチス音楽院でイバン・ガラミアン氏に師事、同校教授だった江藤俊哉氏と知り合い、1955年に結婚。カーチス音楽院卒業後ニューヨーク、フィラデルフィアなどでコンサートを聞き好評を博したが、その後日本に居を移し、夫妻での共演など演奏活動を続けている。



春日 成子 アルト
Shigeko Kasuga

桐朋学園大学卒業。伊藤花子に師事。1968年、第37回音楽コンクール第1位入賞。1970年春、「カルメン」のタイトル・ロールを演じるために渡独。1972年にはギーセン歌劇場の「蝶々夫人」に客演した。1973年、スペインのバルセロナで行われた第19回マリア・カザルス国際声楽コンクールに第2位入賞。



窪田 基 コントラバス
Motoi Kubota

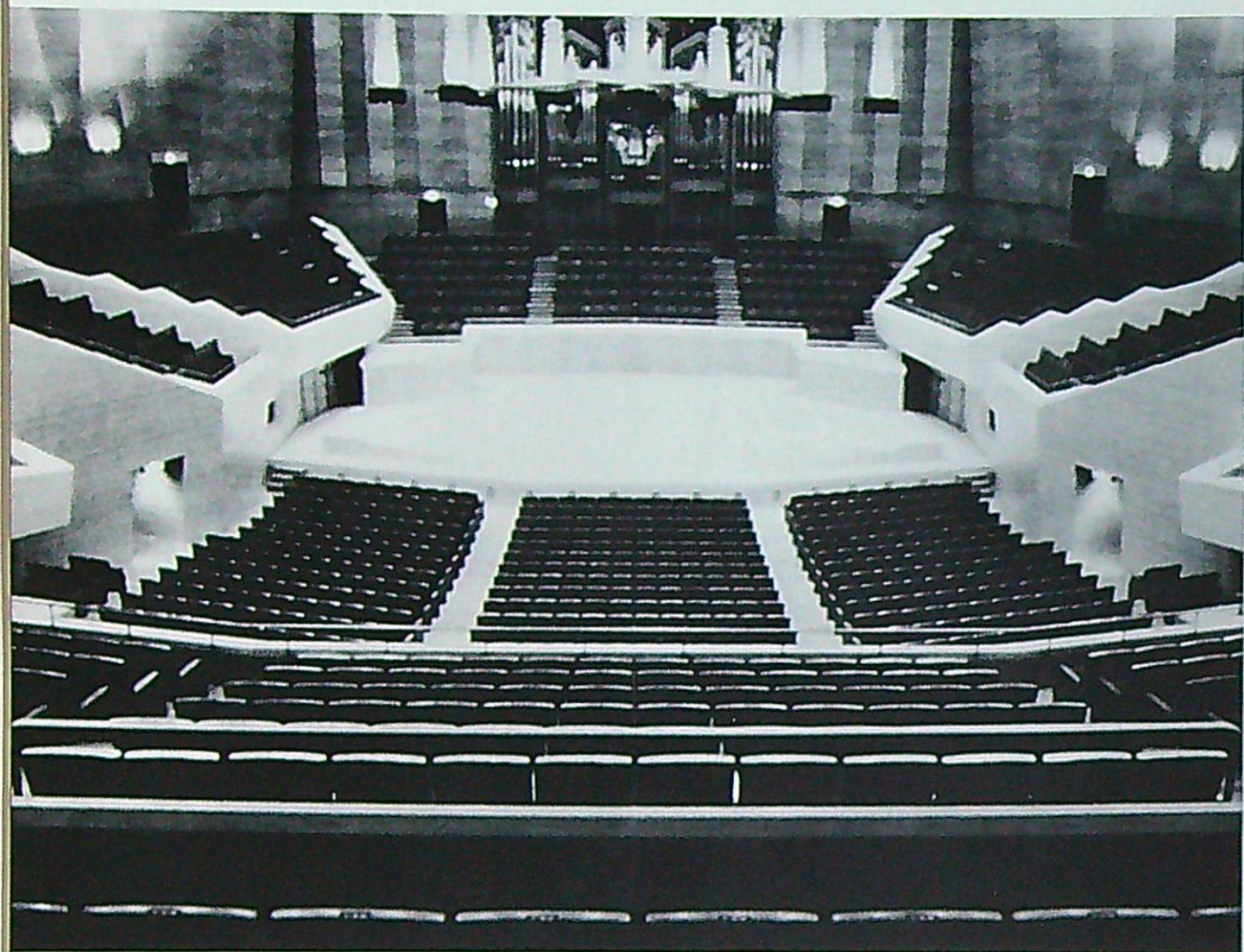
1928年、東京に生まれ、9歳の時から両親に音楽教育を受ける。1946年、東京音楽学校(現芸大)在学中にN響に入団。1983年にN響を定年退職後、オーケストラ在団中から兼務していた国立音楽大学で、コントラバスのレッスンとオーケストラの指導にあたっている。現在、国立音楽大学教授。



栗林 義信 バリトン
Yoshinobu Kuribayashi

東京芸術大学卒業。1956年、音楽コンクール第1位受賞。1958年、イタリアに留学。ヴィオットティ国際声楽コンクール金賞受賞。毎日音楽賞受賞。これまで「トスカ」、「椿姫」、「リゴレット」など20に余るオペラの主役をレパートリーとし、また、ベートーベンの「第9番」などで、全国主要オーケストラと共演している。

出演者紹介



小林 一男 テノール
Kazuo Kobayashi

国立音楽大学卒業。1973年、イタリア政府給費留学生として渡伊。1974年、ミラノのピッコロ・スカラ座のドニゼッティ「リタ」でデビュー。1977年の日本デビュー以来、「魔笛」のタミーノ、「ヴォツェック」のアンドレスと大役をたて続けに見事に歌い上げ、日本におけるテノールの第一人者としての地位を確立した。



鈴木 寛一 テノール
Kanichi Suzuki

東京芸術大学卒業。「ドン・ジョヴァンニ」のオッタヴィアでオペラ界にデビュー。宗教曲の分野でも、著名な指揮者(マタチッチ、スウトナー、サヴァリッシュ、小沢征爾)の棒で各オーケストラと共演。特にパッハの「受難曲」のエヴァンゲリストでは、第一人者とされている。1976、86年と2度、ジロー・オペラ賞を受賞。



数住 岸子 ヴァイオリン
Kishiko Suzumi

桐朋学園大学音楽学部を経てジュリアード音楽院に留学。カーネギーホールでデビューのち華々しい活躍をはじめ、多くのオーケストラと共演。国内でもリサイタル、協奏曲とエネルギッシュな活動が好評を博し、室内楽の分野でも、その高い音楽性と的確な演奏技術によって常に注目を浴びている。



瀬川 祥子 ヴァイオリン
Sachiko Segawa

故鷺見三郎、小林健次、江藤俊哉氏に師事。1978年第33回学生コンクール小学校の部全国第1位。1981年、都響と共演。同年夏、メドウマウント・ミュージック・サマースクールに参加。1984年、第53回日本音楽コンクール入選。1986年、第3回日本国際音楽コンクール奨励賞受賞。桐朋学園大学ディプロマコースに在学中。



田島 好一 バリトン
Koichi Tajima

国立音楽大学卒業、同専攻科修了。1963年から65年まで、イタリアのローマ・サンタ・チェチリア音楽院に学ぶ。「セビリヤの理髪師」、「トスカ」、「椿姫」、「カルメン」、「愛の妙薬」など、数多いオペラでベテランらしい円熟した舞台を見せている他、「第9」やオラトリオのソリストとして、オーケストラとの共演も多い。



津堅 直弘 トランペット
Naohiro Tsuken

1968年、国立音楽大学入学。大学2年の時より、創立間もない日本交響楽団で演奏活動始める。オーケストラアンサンブル、ソロなど幅広い活動を展開し、1983年には文化庁の派遣で西ドイツのミュンヘンに留学、パウル・ラッヘンマイヤー氏に師事。ドイツ音楽の研鑽をつむ。現在はN響首席奏者、東京音楽大学講師。



常森 寿子 ソプラノ
Toshiko Tsunemori

東京芸術大学卒業。1966年、「カルメン」のミカエラでデビュー。1968年に渡欧、留学(ローマ、サンタチェチリア音楽院他)。1970年にジュネーブ国際声楽コンクール第3位・銀賞受賞。1972年に帰国後、リサイタルの他、N響、各オーケストラと共演。1983年11月に行われたリサイタルに対して、芸術祭大賞が贈られた。



寺田 悦子 ピアノ
Etsuko Terada

ウィーン国立音楽アカデミーおよびジュリアード音楽院卒業。ルービンシュタイン国際コンクール金賞のほか多くのコンクールに入賞し、ヨーロッパやアメリカで広く活躍。リサイタルをはじめ、各国の多くのオーケストラとの共演など、国内各地での意欲的な活躍とあわせて、その評価はきわめて高い。



徳永 二男 ヴァイオリン
Tsugio Tokunaga

故鷺見三郎氏に師事。桐朋学園高校音楽科で故斉藤秀雄氏に師事。第34回音楽コンクール入賞後、わが国楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東京交響楽団に入団したが、その後ベルリンに留学し、チャイコフスキー国際コンクールでディプロマ賞受賞。現在、NHK交響楽団首席コンサートマスター。

出演者紹介



戸田 弥生 ヴァイオリン
Yayoi Toda

1968年生まれ。田村隆至、尾花輝代允、亀田美佐子、江藤俊哉の各氏に師事。1979年、第33回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国大会、第1位入賞。1985年、第54回日本音楽コンクール第1位入賞。同年の第3回日本国際音楽コンクール第3位。現在桐朋学園大学音楽部2年在学中。



栃本 浩規 トランペット
Hiroki Tochimoto

1962年生まれ。幼時より音楽に親しみ、中学からピアノを始める。同時に管楽器にも興味を持ち、独学で勉強。1981年に名古屋芸術大学器楽科に入学。和久田照彦、津堅直弘氏に師事。卒業後、1985年に東京フィルハーモニー交響楽団に入団し、現在に至る。若手の将来を嘱望されるトランペッターとして期待を集めている。



豊嶋 泰嗣 ヴィオラ
Yasushi Toyoshima

桐朋学園大学卒業。ヴァイオリンを江藤俊哉、アンジェラ両氏に師事。1984年、アメリカのアスペン音楽祭に参加。1984年にハレーディングカルテットを結成、同カルテットで1986年、斎藤秀雄賞受賞。同年、民音室内楽コンクール第1位。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。



花房 晴美 ピアノ
Harumi Hanafusa

桐朋学園高校ピアノ科を首席卒業ののち、パリ国立音楽院に留学。シフラ国際コンクールはじめ、ヴィオッティ、エリザベートなど多くの国際コンクールに入賞。フランスを中心にヨーロッパ各国および国内で広く活躍。1985年にはポーランドを演奏旅行中、リストの未出版楽譜を献呈されて話題となった。レコーディングも数多い。



平野 忠彦 バリトン
Tadahiko Hirano

東京芸術大学卒業。同専攻科修了。「ウインザーの陽気な女房達」のファルスタッフでオペラにデビュー。以後、数多くのオペラに出演し、わが国のバリトン界を代表する一人。1973年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧。帰国後はオラトリオや歌曲によるコンサートで活躍。1976年度のウイナワールド・オペラ大賞を受賞。



弘中 孝 ピアノ
Takashi Hiromaka

桐朋学園大学音楽学部を経てジュリアード音楽院に留学。1961年音楽コンクール第1位特賞、安宅賞受賞のほか、第1回シフラ国際コンクール第1位金賞、ロン＝ティボー国際コンクール入賞など華々しい経歴をもち、わが国はもちろん海外でも常に高い評価を得ている。室内楽の分野での活躍もめざましい。



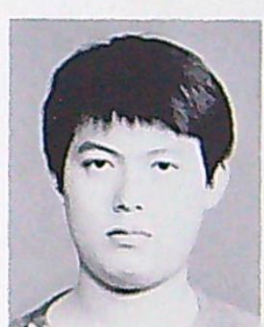
安田 謙一郎 チェロ
Kenichiro Yasuda

故斎藤秀雄氏に師事。第34回音楽コンクール第1位大賞、第3回チャイコフスキーコンクール第3位入賞。カサド、フルニエ両氏に師事。小沢征爾指揮サンフランシスコ交響楽団と共演するなどアメリカ、ヨーロッパで広く活躍し、国内でも柔らかい人柄に似合わぬ力強い演奏が常に好評を博している。



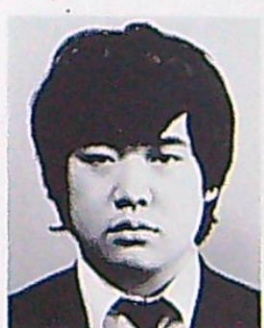
芳野 靖夫 バリトン
Yasuo Yoshino

東京芸術大学大学院修了。西独デットモルト音楽大学でオラトリオリートを学ぶ。1960年、モーツァルトのレクイエムでデビュー。以後、オラトリオや、独唱を含む管弦楽曲のソリストとして活躍。甘美で力強い響きのある声、豊かな表現力、格調の高い音楽性は国内はもとより、国外においても高い評価を受けている。



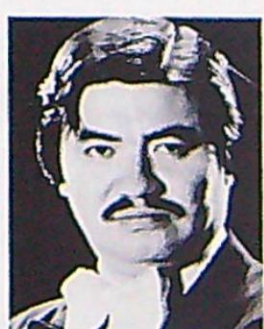
渡部 基一 ヴィオラ
Kiichi Watanabe

1972年、平井友美子氏に師事。1975年、江藤アンジェラ氏に師事。1977年に渡英し、ユルゲン・ヘス氏に師事。翌年帰国後、江藤俊哉・アンジェラ両氏のもとで学び、1986年の第21回民音コンクール室内楽第2部門に入選。現在、桐朋学園大学1年在学中。



渡部 玄一 チェロ
Genichi Watanabe

チェロを木越洋、山崎伸子、堤剛の各氏に、室内楽を井上直幸、江藤俊哉の両氏に師事。1980年、芸大附属音楽高校に入学し、堀江泰氏に師事する。1983年、桐朋学園音楽部に入学。第8回チャイコフスキー国際コンクールおよび、'86ミュンヘン国際コンクールに参加。現在に至る。



渡辺 康雄 ピアノ
Yasuo Watanabe

芸大付属高校作曲科卒業後、渡米。リサイタル、テレビ、ラジオの出演など、8年間の米国留学中の活動は多彩を極めた。1972年、東京でブラームスのピアノ協奏曲第2番を演奏してデビュー。ボストン交響楽団、ヘルシンキ放送交響楽団、NHK交響楽団などの共演に加え、室内楽の分野でも好評を博している。

(五十音順・敬称略)

N響トップメンバーによるアンサンブル

ヴァイオリン：徳永二男、山口裕之、金田幸男、三浦章宏、村上和邦、中瀬裕道、永峰高志、木全利行、ヴィオラ：菅沼準二、川崎和憲、大久保淑人、チェロ：徳永兼一郎、三谷広樹、コントラバス：西田直文、チェンバロ：梅村祐子

※西日本オーケストラのチャイコフスキー「1812年」の演奏には、駒沢大学吹奏学部のみなさんに参加いただきました。

ゴールドブレンド コンサートとは…



ゴールドブレンドコンサートは「音楽の楽しさをひとりでも多くの人に知ってもらいたい。日本のすみずみまで、いい音楽で満たしたい」と提唱する音楽家、石丸寛氏と、その熱意に賛同する方々の情熱が核となってスタートしたコンサートシリーズです。未だにさまざまな文化活動や公演が、大都市に片寄ってしまっている日本…。それは、音楽活動についても決して例外ではありません。素敵な音楽に接したいという願いは、なにも一部の人々だけでなく、日本中のあらゆる街の、音楽を愛するすべての人々が抱く思いのはず。そこで私たちは1973年、石丸寛氏の指揮のもとに、少



しても多くの人が音楽を楽しむ機会が増えればと、このゴールドブレンドコンサートをスタートいたしました。だから、このコンサートの担い手はアマチュア演奏家の人たち。学生がいます。社会人がいます。もちろん、お年寄りの方もいます。こうした年齢や環境、あるいは技術も異なる人たちによってカタチづくられる、いわば手作りの音楽会です。スタートして15年、ゴールドブレンドコンサートは全国各地のアマチュア音楽愛好家の方たちと一緒に、音楽を通して、ステージを通して、大勢のみなさま方と深い感動をわかちあってきたのです。

ゴールドブレンドコンサート 15年の歩み

1973年4月の第1回公演から、今年で15年。ご覧の地図に記したように、これまでに訪れた街は全国で延べ126都市、参加されたアマチュア演奏家は25,000名以上。そして観客の数にいたっては、何と38万人にも達しました。この事実はまた、「音楽が好きだから」の一点で集まってきた人たちの輪が、静かですが着実に広がってきたことの何よりの証でもあるといえるでしょう。まさに手づくりのゴールドブレンドコンサートは、この人と人との結びつきを一番の財産として、これからもしっかりと歩み続けたいと思います。



15年にわたってご協力いただいたゴールドブレンドコンサート・ゲスト出演者

- | | | | | | |
|--|--|---|--|---|---|
| 指揮
今村 能
黒岩 英臣
小林 研一郎
堤 俊作
(故)伴 有雄
(故)森 正
ピアノ
荒 恵一
江戸 京子
久保 春代
小山 実雄
竹中 ひとみ
寺田 悦子
橋本 正暢
羽田 健太郎
花房 晴美
渡辺 康雄
ワイルド
江藤 俊哉
沢 和樹
数住 岸子
宗 倫臣 | (故)田中 令子
徳水 三男
外山 滋
前橋 汀子
蓬田 清重
和波 孝嗣
チェロ
藤原 真理
安田 謙一郎
オーボエ
小畑 善昭
小島 葉子
クラリネット
村井 祐児
ファゴット
井料 和彦
岡崎 耕治
トランペット
坂井 俊博
関山 孝弘
祖堅 方正
オルガン
島田 麗子
ハープ
鈴木 えりか
野畑 潤子 | J. モルナー
ギター
山下 和仁
ギター
河野 保人
ソプラノ
秋山 恵美子
姉崎 はい子
大川 隆子
勝本 章子
菊原 史英
小池 容子
小手川 晶子
斎藤 昌子
島田 祐子
杉元 章子
砂原 美智子
常森 寿子
高木 鳩子
中沢 桂
中山 早智恵
向原 佳代
アルト
伊原 直子
大藤 裕子
梶井 裕子 | 春日 成子
木村 宏子
都 愛子
辻 有子
中谷 和子
中山 洋子
野添 敬子
基島 純子
渡辺 静香
テノール
相沢 清
饗場 知昭
五十嵐 喜芳
板橋 勝
金谷 良三
高 丈二
小林 一男
佐々木 正利
下中村 功
篠崎 義昭
杉山 文男
鈴木 寛一
曾我 淑人
田口 興輔 | 田原 祥一郎
丹羽 勝海
宮原 卓也
バロタン
池田 直樹
梅原 秀次郎
大島 幾雄
小野 浩資
勝部 太
岸本 力
栗林 義信
黒岩 悟
佐藤 光政
菅谷 省三
鈴木 理文
高橋 修一
高橋 大海
田島 好一
(故)立川 清登
友竹 正則
原田 茂生
平野 忠彦
芳野 靖夫
司金(おとし)
伊丹 十三
うつみ 宮土理 | 片山 良和
(故)木村 重雄
田中 明夫
ハナ 肇
皆川 達夫
横溝 亮一
ポピュラー
芹 洋子
田代 美代子
ベギー 葉山
雪村 いづみ
猪俣猛とサウンドリミット
江草啓介カルテット
小川俊彦カルテット
その他
静岡児童合唱団
有田神楽団
広島酒造り唄保存会 |
|--|--|---|--|---|---|

(敬称略)

全国126都市 観客総数384,811人 出演総数25,839人 ●観客数 ■出演者数(1987年6月現在)

'73 10都市 ●23,772人 ■2,955人 福岡市(4月) ●2,750人 ■275人 札幌市(5月) ●2,158人 ■400人 松山市(7月) ●2,562人 ■330人 広島市(7月) ●1,854人 ■270人 熊本市(8月) ●2,550人 ■289人 新潟市(9月) ●2,450人 ■354人 静岡市(10月) ●3,586人 ■354人 長野市(11月) ●1,844人 ■215人 長野市(11月) ●2,195人 ■210人 仙台市(11月) ●1,823人 ■310人	'74 14都市 ●37,304人 ■3,400人 山形市(4月) ●1,977人 ■444人 長野市(5月) ●3,300人 ■230人 高知市(5月) ●1,760人 ■296人 岡山市(6月) ●2,800人 ■499人 札幌市(6月) ●2,408人 ■233人 仙台市(7月) ●2,670人 ■270人 松山市(7月) ●3,362人 ■327人 長崎市(8月) ●3,015人 ■233人 広島市(9月) ●3,015人 ■261人 金沢市(9月) ●1,998人 ■230人 熊本市(9月) ●3,042人 ■93人 福岡市(10月) ●2,293人 ■91人 新潟市(11月) ●3,213人 ■87人 清水市(12月) ●2,451人 ■106人	'75 11都市 ●44,442人 ■3,400人 長野市(5月) ●2,371人 ■243人 松江市(6月) ●2,800人 ■280人 岡山市(7月) ●2,820人 ■130人 仙台市(7月) ●3,365人 ■236人 山形市(7月) ●1,709人 ■516人 熊本市(8月) ●2,919人 ■87人 福島市(7月) ●1,567人 ■263人 松山市(9月) ●3,192人 ■358人 新潟市(10月) ●3,038人 ■87人 鹿児島市(12月) ●3,101人 ■360人	'76 9都市 ●29,984人 ■2,028人 金沢市(5月) ●2,790人 ■92人 福岡市(7月) ●3,909人 ■236人 長野市(7月) ●3,138人 ■223人 長崎市(9月) ●4,150人 ■102人 広島市(9月) ●4,561人 ■235人 松江市(12月) ●2,036人 ■111人 新潟市(12月) ●3,930人 ■280人 山形市(12月) ●2,152人 ■434人 鹿児島市(12月) ●3,318人 ■255人	'77 10都市 ●30,881人 ■1,689人 長岡市(5月) ●2,032人 ■169人 松江市(6月) ●2,835人 ■65人 福島市(7月) ●5,200人 ■106人 熊本市(7月) ●2,442人 ■85人 高松市(7月) ●2,303人 ■281人 防府市(9月) ●4,800人 ■93人 甲府市(10月) ●2,366人 ■346人 新潟市(11月) ●3,541人 ■205人 防府市(12月) ●2,455人 ■68人 高知市(12月) ●2,907人 ■271人
'78 10都市 ●32,171人 ■2,056人 青森市(4月) ●2,234人 ■274人 新潟市(5月) ●3,655人 ■205人 松江市(6月) ●3,254人 ■188人 甲府市(7月) ●3,307人 ■532人 那覇市(8月) ●3,400人 ■72人 長崎市(9月) ●4,553人 ■107人 高松市(9月) ●2,398人 ■83人 長野市(11月) ●2,562人 ■352人 札幌市(11月) ●3,402人 ■62人 盛岡市(12月) ●3,406人 ■181人	'79 11都市 ●34,052人 ■2,284人 弘前市(4月) ●1,672人 ■322人 松江市(6月) ●3,272人 ■92人 盛岡市(6月) ●3,224人 ■338人 岡山市(7月) ●2,919人 ■161人 那覇市(8月) ●3,179人 ■198人 長崎市(9月) ●3,311人 ■106人 金沢市(10月) ●1,777人 ■251人 甲府市(10月) ●3,888人 ■348人 那覇市(11月) ●3,500人 ■54人 静岡市(11月) ●3,870人 ■139人 高松市(12月) ●3,440人 ■275人	'80 9都市 ●31,423人 ■2,050人 熊本(3月) ●2,791人 ■106人 青森市(4月) ●2,454人 ■349人 長崎市(6月) ●2,665人 ■136人 盛岡市(6月) ●3,556人 ■262人 那覇市(9月) ●3,953人 ■396人 松江市(10月) ●3,846人 ■456人 宮崎市(11月) ●3,908人 ■72人 宮崎市(11月) ●3,850人 ■104人 神戸市(12月) ●4,400人 ■169人	'81 9都市 ●28,214人 ■1,224人 藤沢市(2月) ●2,073人 ■327人 弘前市(5月) ●2,515人 ■93人 長崎市(5月) ●3,706人 ■101人 長岡市(6月) ●2,620人 ■75人 神戸市(8月) ●2,645人 ■107人 倉敷市(9月) ●3,840人 ■259人 静岡市(11月) ●3,294人 ■91人 宮崎市(11月) ●3,306人 ■84人 高松市(12月) ●4,215人 ■87人	'82 7都市 ●21,127人 ■1,156人 松江市(4月) ●2,562人 ■104人 天童市(6月) ●2,001人 ■77人 新潟市(7月) ●3,676人 ■79人 長崎市(9月) ●3,800人 ■272人 宮崎市(11月) ●4,251人 ■193人 福井市(11月) ●2,267人 ■91人 静岡市(12月) ●3,396人 ■340人
'83 8都市 ●23,919人 ■1,287人 倉敷市(4月) ●3,710人 ■83人 山形市(6月) ●2,729人 ■88人 福岡市(8月) ●2,727人 ■405人 徳島市(9月) ●2,227人 ■102人 甲府市(10月) ●3,587人 ■92人 宮崎市(11月) ●3,695人 ■85人 福井市(11月) ●2,489人 ■78人 静岡市(12月) ●3,155人 ■353人	'84 8都市 ●21,705人 ■856人 熊本(3月) ●2,864人 ■105人 盛岡市(5月) ●3,103人 ■134人 米子市(7月) ●2,062人 ■115人 富山市(8月) ●1,594人 ■100人 高松市(9月) ●3,922人 ■106人 甲府市(10月) ●3,523人 ■93人 那覇市(11月) ●3,500人 ■117人 宮崎市(12月) ●3,174人 ■86人	'85 5都市 ●14,530人 ■956人 福井市(5月) ●2,015人 ■210人 大分市(6月) ●3,924人 ■143人 岡山市(10月) ●3,208人 ■91人 長野市(12月) ●3,221人 ■466人 郡山市(12月) ●2,262人 ■86人	'86 5都市 ●14,160人 ■556人 徳島市(4月) ●2,235人 ■112人 大分市(5月) ●3,702人 ■117人 福島市(6月) ●2,654人 ■97人 那覇市(9月) ●2,629人 ■138人 富山市(10月) ●2,940人 ■92人	'87 6都市 ●11,027人 ■661人 高松市(3月) ●3,122人 ■84人 新潟市(4月) ●4,225人 ■462人 大分市(6月) ●3,680人 ■115人 倉敷市(9月) ●2,267人 ■91人 甲府市(10月) ●3,306人 ■84人 静岡市(12月) ●4,215人 ■87人

ゴールドブレンドコンサートは、
このようにして
つられていきます。



「オーケストラで演奏する楽しさを、初めて知った」「あまり興味のなかったクラシックが、好きになった」……。

こうした声を、多くの方からお寄せいただいているゴールドブレンドコンサート。その準備は公演実施前年の開催地選びから始まります。多くの候補地の中から各地域の音楽活動状況をはじめ、さまざまな観点から実施の可能性を検討し、コンサート開催地が決定されるわけです。同時に音楽監督の石丸寛氏を中心に、スタッフと地元の音楽関係者との間で打合せが行なわれて、演奏曲目が決めます。

当日の演奏者および出演者の募集は、公演日の約7ヵ月前。地元のアマチュア演奏家であれば、原則として誰でも自由に出演できるのがこの



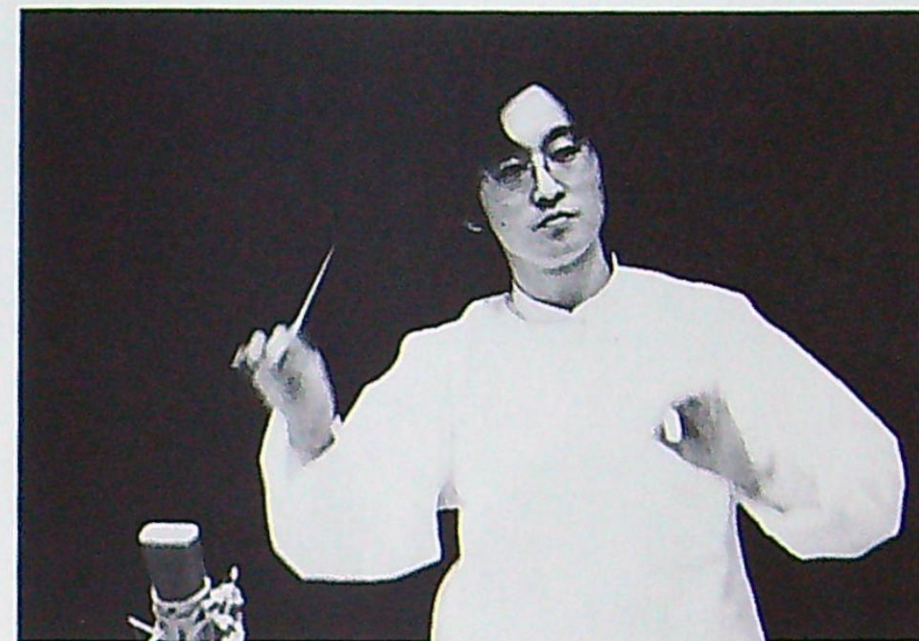
コンサートの大きな特長となっています。学生、主婦、サラリーマンなど、職業も年齢もさまざまな人たちの応募があり、ときには地元の交響楽団が2つできてしまうほどの人数が集まってしまうことさえあります。さて出演メンバーも決まり、実際に練習が始まるのが公演の半年前くらいから。音楽環境も、そして技術的なレベルも違う人たちが、ひとつのチームを組むわけですから、練習といってもすぐ合奏に入れるわけではありません。まず、基本的な音づくりからはじまります。石丸寛氏をはじめとするプロの指導のもと、基礎からの練習が熱心に続けられますが、全体の音が合うようになるまでの演奏者の努力は大変なもの。1小節ごとに指揮者のタクトが止まり、ときには厳しく、ときには優しくアドバイスを受けることもあります。そ



れども、ほとんどの人が半年間ものあいだ、休むこともなく練習を続けていけるのは、オーケストラで、ステージで演奏できるという夢を、ひとりひとりがしっかりと胸に刻み込んでいるからに他なりません。

コンサートの主役は、アマチュア演奏家の人たち。しかし、彼らが当日、ふだんの力を発揮できるよう陰で支えるスタッフの人たちの力を忘れることはできません。当日の模様を収録するテレビ局の人たちを始め、たくさんの方がコンサートを成功させるために協力しています。

とりわけ大変なのが、指揮者・音楽監督の石丸寛氏と、3人のプロの音楽家の方たちです。情熱あふれる音楽づくりで、大勢の人から慕われている田中一嘉氏。また、ハンガリー国立交響楽団の常任指揮者という忙



しい身でありながら、快く指揮を引き受けていただいている小林研一郎氏。いま最も期待されている若手の指揮者、といわれる今村能氏。それぞれに違った職業をもつ人たちの集まりであるアマチュア楽団にとって、練習日はとかく週末に片寄りがちです。しかし、このような制約にもかかわらず、必要とあらば忙しいコンサート活動の合間をぬってどこへでも出向いてくださる指揮者の方々の存在は、いまやこのコンサートにはなくてはならないものとなっています。

このように、単にアマチュア演奏家だけでなく、見えないところで多くの人たちの熱意に支えられて今日の舞台を迎えた、ゴールドブレンドコンサート。さあ、その成果を存分にご堪能ください。

鼎談 第三のオーケストラ



ヴァイオリニスト 江藤俊彦氏



指揮者 石丸寛氏



音楽プロデューサー 萩元晴彦氏

石丸 僕は「第三のオーケストラ」ということをよく言います。世界のオーケストラの歴史を見ると、貴族に擁護されてきたヨーロッパのオーケストラは、今も国や自治体からの援助でまかなわれている。アメリカは民間の経済援助で運営されていて、いかにも資本主義の国らしいやり方です。では、日本のオーケストラはどちらの方法を参考にするかと考えた時、これは殆ど絶望的です。つまり、現在17か18あるプロのオーケストラは、日本の経済事情からすれば、もうこれ以上国や自治体に望んでもムリでしょうし、民間企業やお金持ちも、税制の違いもあって、多額の寄付は望めない。とすれば、プロでもアマでもない、第三のオーケストラというものがあると僕は考えたわけです。つまり年間数億というお金を喰うプロ・オーケストラではないが、市民の、親子で楽しめるだけの技術レベルは備えたオーケストラというものです。良い指導者群さえ得られれば、これなら十分に考えられると思います。

萩元 ゴールドブレンドコンサートというのは、その地方にあるオーケストラを主体にやるわけですか。それとも、音楽好きな人を集めて、やるわけですか。

石丸 オーケストラがないという地方は、今、ないですね。ただ、組織の仕方、運営の仕方などの問題がいろいろあるわけです。もちろん、決定的に大切なのはトレーニングです。よく僕は、誤解を恐れずに「音楽にはプロもアマもないんだ。ベートーベンのやり方には、二通りない」と、いつも言うんですけどね。

江藤 プロは何だ、アマチュアは何だということはできないでしょ。だからアマチュアというのは他に職業を持っていて、楽器を演奏するのがアマチュアなんですよ。

石丸 強いてアマチュアを定義づけたら、やっぱりそうですね。

江藤 アメリカなんか、コミュニティオーケストラといって、従来のオーケストラの、その下にもう少し小さいのがある。メンバーは、大学のプロフェッサーとか、生徒とか、他に職業を持っているんですね、弁護士とか。僕はアメリカのシャイアンというところに行ったんだけど、そのコンサートマスターがものすごくまいんですね、ごつい手をして。で、あとで聞いたら彼は水道屋さんだというんです。(笑) 本当にいい音を出して弾く。だから、結局彼はコンサートマスターだけでもアマチュアである。ただ、僕は絶対アマチュアとは思えなかったんですけどね。どうも僕は音楽する心というのは、プロでないほうがもっているような気がする。

萩元 僕はお世辞を言うわけじゃないけど、今日は石丸さんを褒めなきゃいけない。というのは、やっぱり江藤先生がおっしゃるように、アマ

チュアのほうがむしろ音楽的心がある人がいるだろうけど、それは個々に、一人一人がそうなんだけど、それを組織とする時にはやっぱり大変なことがあるだろうと思うんですね。あれだけの水準のコンサートを10何年間やるというのは、これはもう大変なことですよ。僕は一方において「オーケストラがやって来た」を10年間やってきて、アマチュアというのは、わがままというか、そういう印象も非常に強かった。本当になんかわんと思ったこと、ないですか。

石丸 15年間、その連続ですよ。(笑)

萩元 もともと、アマチュアという言葉は、芸術などを深く尊敬するという意味があるそうでした。だからあらゆるプロフェッショナルの音楽もアマチュアイズムというか、アマチュア精神がないといけないと思うんです。僕は何回もやったんだけど、約束していたのに途中でいやだとか、弾けないとか、本当にわがままね。

江藤 そういう苦労は、僕なんてわからないですよ。ホールへ行って、偉そうな顔をして弾いていけばいいんだから。

萩元 でも、江藤先生はちゃんとお膳立てが出来たところについて、プロとしての最高の技量を発揮すれば、それが先生の仕事だからいいわけで、その前の石丸さんは大変ですよ。

石丸 でも、いい面を見れば彼らは純粹なんです、技術のうまいはずじゃなく。純粹さを裏返しにすると、萩元さんのおっしゃったように、もう弾けないからという無責任さもある。でもその純粹さに引っ張られてね、彼らが必死についてくるのなら、オレもやらなきゃという気になって、逆に励まされる。

萩元 人間一生懸命やると、自分が教えているつもりでやっているんだけど、その人に教えられているということがありますよね。

江藤 ロンドンの郊外にあるんですけど、よく新しい曲を練習させてくれるアマチュアオーケストラがあるんです。初めてのコンチェルトを弾かないといけないという時に、うちのオーケストラで弾きませんかと言ってくれるんですね。僕の生徒にも言ってるんですが、そういうことで演奏するっていうのは、すごく勉強になるんですね。

萩元 なるほど、そういうのがあるんですか。プロを育てるアマチュアオーケストラね。(笑)

江藤 アマチュアの人、ロンドンの檜舞台で演る人たちがきて、一緒に弾いてくれるというのですごく喜ぶわけですね。

萩元 それは練習だけですか。コンサートもやるわけですか。

江藤 コンサートもやりますね。だから、その市長さんも来て演奏を聴



いて喜んでね。外国に行くとき市長さんが来たり、東京も都知事は来ますけどね。だけど、そういう人が多いですね。ああいう人たちが総理にでもなったら、少しは日本の文化が変わるんじゃないですかね。そういうアマチュアオーケストラで育った、プロのソロ弾き手が多いんですよ。

萩元 以前、僕はエドワード・ヒースという英国の元首相を招んで指揮をしてもらってよくわかったんですけど、ヨーロッパと日本の伝統の違いをすごく感じるんですよ。ヨーロッパではまるで素人の、それも鉄工所の社長さんみたいな人が、家に帰ってくると奥さんと子供と一緒に室内楽をやる。それがざらでしょ。どうも、根底に室内楽の伝統のあるのとないのとの違いがあるのだらうと思うんです。

石丸 僕も初めてN響を振った時に、吉田雅夫さんから「何でもいから、室内楽をやりなさい」と言われたことがあるんです。たしかに、室内楽をやっていないと本当にオーケストラはできないね。

萩元 室内楽というのは、弾くということの前に聴くということがある。どうも音楽で一番大切なことは、聴くということだと思っんです。聴くということは、本当は音楽だけじゃなくて人間生活の基本ですよ。子供の頃から、家でお父さんやお母さんと一緒に室内楽をやらせるということを、なるべく指導していくべきなんではないでしょうか。

江藤 バイオリンだと、一応弾けないとアンサンブルどころじゃないでしょ。難しいんですよ。でも、今これだけたくさん習っている子供が親になった、そういう時に期待しなきゃいけないですね。これからですよ。

萩元 聴くということで僕が一番興味深かったのは、6年前にカラヤンとベルリンフィルの番組を作ったことがありまして、練習風景を撮影したんですよ。その時に、カラヤンという人は非常にダンディズムを気にする人だから、本当の練習は撮らせてくれないんですよ。

石丸 あれは、やっぱりそうだったんですか。

萩元 テレビ用の練習なんです。で、たぶんそういうことがあるだらうと思って、カメラマンなしでハイドンの「時計」を撮ったんです。これは本当に面白かったんですけど、カラヤンがどうしたかというね。あるシンフォニーのアンサンブルが合わなくなったら、カラヤンは棒を止めて自分で聴いているんですよ。そして後で小沢さんが解説したのは、下手な棒振りは合わないとい一生懸命棒を振るけれど、うまい棒振りは合わない時は自分でじっと聴いている。要するにリーダーが聴けばオーケストラも聴くと言っんです。そして、カラヤンがその時の練習で何を言ったかという、これは室内楽なんだと言っんです。ハイドンのシンフォニーを。それが非常に印象的だね。どうも小沢さんの練習なんか見ていると、聴け聴け

1973年 熊本でのゴールドブレンドコンサート



ということをしきりに言っているのはそういうことなんだということが、最近やっと分かったというのが僕の実感ですね。

石丸 内田光子の言葉で僕は忘れられないのがあるんですよ。それは「私は、弾くということは聴くことだ」という言葉なんです。これはあの人ならではの言葉だと思ったんですが、弾いているということは、たえず自分を聴くことだと言っんです。

江藤 だから、一般の人たちにもここで言いたいのは、大にいい音楽を聴いて、そして、これがいい音楽か悪い演奏かということを知るようになってほしいんですよ。わからないような人が、ちょっと多すぎるという気がします。それから、音楽会に行っしてほしいですね。僕等の子供の頃は、世界でも有名な人が来ると必ず行っっていましたよ。わかってても、わからなくても。ですから、ぜひいい音楽会に行っしてほしい。悪い音楽会にも行っ、これはひどいなと思ってくれれば、それだけ鑑賞力がつくということですからね。とにかく音楽会に行っということが、まず大切ですね。

萩元 お客さんはなるべくたくさん音楽会に行っしてほしい。僕等みたいなプロデューサーは、できるだけその時にいい演奏家を、いい音楽家を集める。というのが僕の方の使命で、なるべくいい音楽会を企画してそれに行ってもらっという、そういう迂遠な道だけど、それをやらない限りだめでしょうね。



おかげさまで20周年

1967年10月、ネスカフェ・ゴールドブレンドは
本格派フリーズドライコーヒーとして誕生いたしました。
以来20年その挽きたての味と香りは、
日本全国で愛され親しまれて今日にいたっています。
和食の後にもピッタリの、日本を代表する繊細な風味で
これからも皆さまの毎日にゆたかなひとときを
お届けしつづけたいと願っています。

出演者変更のお知らせ

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番（第3楽章）に出演予定の花房晴美氏が、指の故障のため出演不能になりましたので、代わって、渡辺康雄氏が演奏することになりました。
事情をお汲みとりの上ご了承下さいますようお願いしかたがたお知らせ申し上げます。

一九八七年八月二日